



○編纂室 あはれ

色別いかにれ里いあうあうとあはれりゆりてん

ね奇

久任

たらしわいあえれ里の木の葉をれ露を今ゆらん

油厚しむとらていかにりりあり

字 重健

いづれはかた月んやまれ里の人

周本

あつとまていかにりり田舎

定圃

あつとまていかにりり田舎

宗任

○新開

正之

さかたへとも船うつしはるあひつらに植かきやくを来とら

まはるる花うけつり新開

義徳

○内助が園

正音

内助が園に龍舟車を引く用されり

重次

り莫よ心とて何ものかふあふとけり園家のそ

○河田 表系 河内郡

魚仲

久方れのをきとてやと今朝も河田の表系

俊成

日 志門れ女う河田の原に摘りてあつて神物と

○玉田横野 茨田郡

後光

あつるを玉田の野にまれば物指もににせと

あつるを玉田の野にまれば物指もににせと

和奇

友和

とま牛れ玉田横野のゆくとては是を河田の表系

えはのをも玉田の野にまれば

野鹿

雨風やまわり玉田の表系

係友

○會余賀市 河内郡

ふとく志く次

花は白くふかふかすまの市なる枝とては

和奇

友和

酒と酔移れえふの市人とりはとて碎れやと

扇うとてかや會余賀市の系

二十

○高瀬

茨田郡

家長

あし枕を流れ流るる心してはそや

河内郡

和

續法撰

晴念法師

いづこせうもぬれ流るるを抗りてそのたがう法ひきあらん

友和

拈後と高瀬れ川のうらまへ河童んをかそ船人よと

きんめいもぬれ流るるを抗りてそのたがう法ひきあらん

月れ船いそぬれ流るるを抗りてそのたがう法ひきあらん

○茨園寺太子早稲寺伽藍不本言ハ業師いんれはふり

あつらん焼失し石と斗流るる旧礎也小言敷く云ふ不ふり人の記ありき流るるはあり也

相奇 法橋奇意

後ろ世とれすことと合しとまうらうちのむす

○能登瀬川

万葉

よしんあふり

高瀬なりつとせれ川のほよあつん妹に我そくあふり

相奇

松原

のりほひつ初り矢れとて水つをきとらてつとせ川

名敷と難とやいん能登瀬川 政公

のりせ川ささむらうれ大河りか 隆玄

洗ひ出るも月敷よ金やのり川 兼水

○野口 茨園部

歌仲

此獨野れ野にれ花がひくと羽風は遠くふり野

雑六

伝実

あつさり野にれ里に若うりてるれふりた今そ物なり

河内監表六

和奇

友和

蛙鳴野はれんこのあやうらやうとまはるる

鳥追や野はとくく門乃妻

政公

くつと虫声きく鞍の野は

如貞

○清水池 茨田郡

又本

兼作

浮つたてふ志の池に新とてかた河は流しを流るるなり

和言

次童

とゆゆふよまひ志の池はすむ地所とあはれ心なり

○守に 香地名也 茨田郡

ゆりはり梅の白ひや香れ也

高故

時多かりんは愛くすなりは

隆玄

魁の屋のゆりはるる水折るか

政長

○村の名小一畝二畝三畝十畝迄あり茨田郡

一畝小初者さうせうかきく

久次

村の名小二畝白水やうき水

宣休

三畝んとおろしむ村乃すまうか

漢川

秋れもかんのゆきさんとさうか

良弘

左名と名をましましや九畝少

黒水

○ 伏太又天禄一畝村也

○ 伏太池伏太川馬村也

○依太上天祿御什物

仙洞様御製衣

衣の風世々いつくく祿博や
後ろとけく梅とよ本とせ

河列依太上天祿御什物
と母近代社あきいつく糸鼻乃儀式と
報りつと永井信列太上天祿御
再興物にいつの社藤目と集い
者ハ等と聴友ハつとむそつ法

太上天皇百和香つ梅つ折枝とそく

尚政朝臣つ梅つ折枝とそく
瑞籬つと梅つ折枝とそく
と尚政朝臣つ梅つ折枝とそく
田陣つ寶おと報りつ河の榮つと
加倉んさつと祿つ法つとそく
かまつと登いよつとあつとそく
河割裂つ由来つとそくはつとそく
よつと亭やむつと法えとそく
はつと法とつ報りつ

慶安元年大昌念五

北野寺務二品親王良尚書之

里人のいづく二枚の梅内なるぬ月入末つては
梅より一は勅定おしきありや二枚ありしは瑞籬の梅
本と見ゆりとは一と取極し本は末は末はめく
ふりも亦神と梅とありたりとめかひまていぬ
かり梅木の梅の神木と稱してたりやれは神籬
さしし一書の手すりて天れおそれいひたりん
九和奇のうたがしとやんはひり蒙子ア
月中旬虫りよ系信ありともなりをいぬ
れとありともかたりとありともなり

新院様は自他後唐の天祥の号像繪して在るに
小野寺勢二品親王良尚王

東福門院様繪少くは自他の
業平末常掛物 一幅

竹門様
沖自畫自後唐天祥 一幅

竹門様沖筆ノ額依ぬ天満大自在天祥と云
天神末常の沖執則天神沖自筆

近湯様 依ぬ 沖發自沖自筆前書あり

河内四依ぬとりのみまてくは毎に宗廟の法樂
乃連歌をくくさりたりありと後つると今た
くび興一と世といつらんといひくありと
ふとくつとつとつと

格
神やもりの母くつとく家の花威

天神松梅の賛道長春女と云徳 三幅 一幅 繪益依是

天神

夕顔巷空

西麓以林塾秘宮檀家世儒宗
任宰官歿有精靈生有節
花時却一賞碧琅玕

松

向陽子

蒼桐儼然力德降蒼髯獨
立向儒風生上一夜顯靈異
絕勝夢中十八公

梅

函三子

冷葉東風紅向芬清標
今古對管君飛梅似振

蟠龍勢捲盡海西千里雲

後為天珠雷船等

十一面觀音 白蓮花 赤蓮花 三幅一對法眼探幽

畫繪天神 表 同筆

尚政釣魚 しつりしつり 尚政合利 しつりしつり 尚政合利

竹門以筆菊乃繪掛也一幅 しつりしつり 以筆菊乃繪掛也

秋の野 あきのの 草花 くさな 草花 くさな 草花 くさな

紫野大德寺江月和尚掛物一幅

寬永永女癸未載二月日詣伏多

惟時再興卒賦一偈以祝遠人三

伏多比野又西府一樹梅花

面目真七百餘年德惟蔽南
至大自在天神

宗玩祥

玄仙繪ハ八幅、萩ハ坊寺ハ竹門河筆

皇會書一冊、新書

依古文此起法中道春筆

寶劔流武藏國豊後郡住大和守包定

菅家文章第十二冊

觀鳥ノ縁起

性古ノ依古文縁起繪入六卷あり

右ノ縁起六巻ノヤリヤリハ八幅山法堂内ノ筆也

三ノ外寶物多ク一ノと一ノとと云はれり

菅相寺山号ハ平林院号ハ玉苑院切号ハ東坊若七坊也

觀鳥堂十一面觀鳥ノ基并他牡丹芍薬あり

依古化

任勢

我ハこゝかゆりつ所と云はれ池ノ畔ノ小ノみかろあり

多

依古川

後教

約ガ人ノくいふよゆんき川ノ校ノりやまきと

相奇

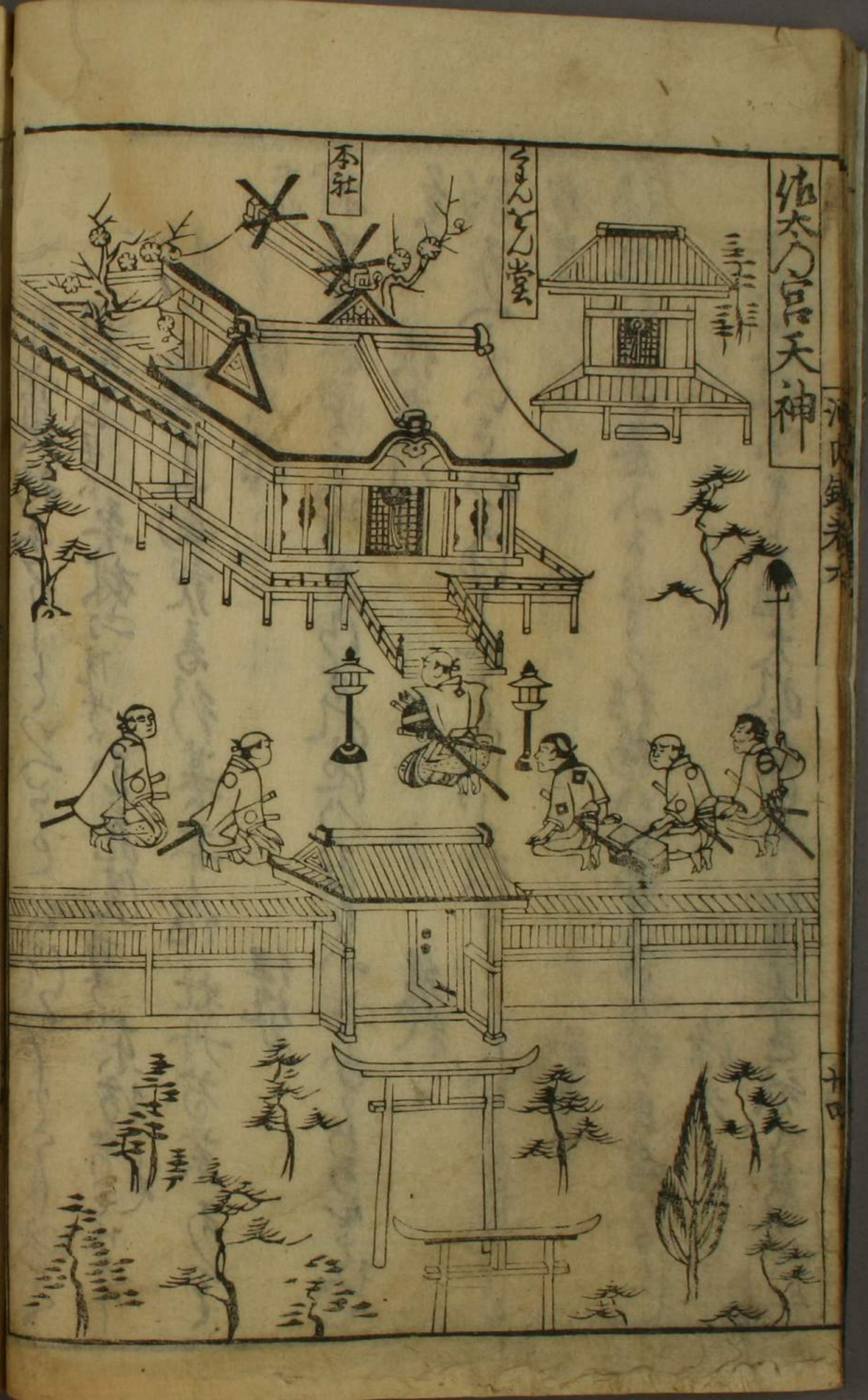
正書

依古文ノ意ふそまろ杉梅ハ日本ノさる氏本なり

曰

澤久

初ノんたれ候そと依古文ノおに皇書也



ひら方

河内録卷六



三

ひら方の西

大坂のいなう

森



○ 萬年寺 抜田系

萬年寺古名松山と号す土面觀音所守 春日乃地邊

佛と云石乃素師 弘法 于八分弘法の如くなりと傳りありと傳

醍醐寺寶修正開基也

○ 大垣門 大垣 西の門と云と進下也垣のひらけを云と

○ 天川 文野系

定家

辰の門就り橋中なる橋はもくしあわらけ天の門波

歌林

兼光大臣

皇合代光やうにいらぬらんく野は神乃天此河水

相寄

一有

天河ふりあかむひとほいといふらりりせよ七日七夜

山香

龍ねりのひかりをききて天れ川をうらみおのれを人にきり

久女

家おひ天れ川流るにあら水さへんせくをよせ

友和

川らじ七夕書よまふさるん天れ川原よ橋とりつ

星や水よ流あひぬす天の川

一志

天れ川今そりる月乃二り

元中

天の川にひさる月や糸船なり

正吉

七夕の星田や出合ふ天の川

定親

霜とりり天の川糸や俄書

言子

○たか天王子の影いづみの影いづみ宮女いづみの影いづみの末がら

○竹川交野郡

躬恒

紅糸かべしれ流るしぬ竹川乃剛れをとりて天の川

陸院

袂代たもとしらるるとうらぬ竹川れよと君よわかき後ん

友和

むらむらむらむら竹川あつしぬいよむらむらむらむら

香隆

竹川れゆらぬむらむらむらむらむらむらむらむらむら

政公

竹川よむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

次重

御田之切まりは竹川の氷とゆえと花を小口人

竹川の鮎さうのよは氏酒 一十

○禁野三上人 文野郡和田寺三上人素原三上人子三上人池三上人地三上人和三上人田三上人影三上人夜三上人と三上人建三上人ま三上人と

惟高三上人子三上人所三上人初三上人の三上人河三上人金三上人久三上人の三上人三三上人足三上人れ三上人紙三上人か三上人し三上人し三上人を

ひ三上人あ三上人と三上人禁三上人野三上人と三上人河三上人判三上人札三上人う三上人ら三上人あ三上人ひ三上人し三上人と三上人戸三上人傳三上人へ三上人傳三上人り

鶯三上人と三上人と三上人み三上人片三上人し三上人ら三上人禁三上人野三上人の三上人か 香隆

一三上人都三上人と三上人禁三上人野三上人の三上人里三上人の三上人部三上人一三上人と 永富

○中三上人文三上人野三上人郡三上人西三上人方三上人寺三上人正三上人親三上人善三上人行三上人基三上人他三上人河三上人長三上人二三上人尺三上人二三上人寸

○百三上人飯三上人王三上人の三上人美三上人あ三上人の三上人廣三上人と三上人素三上人原三上人有三上人伽三上人藍三上人の三上人同三上人江三上人を

○百三上人飯三上人王三上人子三上人來三上人孫三上人聖三上人德三上人一三上人右三上人よ三上人常三上人下三上人人三上人を三上人ま三上人ひ三上人し三上人と三上人あり

○交野 俊成

又やま文野のむね橋のたれ書らるるまのりめ

塔三上人 帝陸

あま三上人と三上人れ三上人う三上人ら三上人う三上人と三上人ま三上人無三上人よ三上人び三上人か三上人ら三上人と三上人ま三上人の三上人鳴三上人ん

ね奇 好昌

日三上人照三上人う三上人や三上人交三上人野三上人の三上人小三上人野三上人小三上人野三上人と三上人て三上人は三上人ま三上人る三上人里三上人人三上人を三上人ま三上人は三上人は三上人

日 友和

あま三上人が三上人う三上人ら三上人う三上人と三上人ゆ三上人ら三上人う三上人と三上人れ三上人炎三上人と三上人ま三上人わ三上人ら三上人り三上人場三上人と三上人ま三上人ら三上人と三上人は三上人

ま三上人し三上人奇三上人の三上人つ三上人つ三上人や三上人屋三上人と三上人う三上人と三上人野 為意

あ三上人ま三上人た三上人の三上人え三上人と三上人交三上人野三上人の三上人紙三上人子三上人 常政

初三上人場三上人の三上人紙三上人子三上人ま三上人ら三上人ら三上人羽三上人を三上人ま三上人し三上人神 定久

初三上人め三上人の三上人か三上人と三上人野三上人の三上人紙三上人の三上人紙三上人と三上人小 権松

紙も信や我もこれか多んく

一荷もやうくはく野の月見花

并高と折やうく野の梅あり

見ゆらうもさきとてや梅折

くらあともおわく掛ふく神業

帷子いへくあうくかちりも

くらくあうくあうくよ崩やうやと草

徳とやせうくうくうく福ゆめ

くこれくあうく月や一川紋

あうくあうくや入くう月か

鳴きさうくこれくあうくか

蒲田

津屋

蓋着

信成

政公

似柳

政公

常有

周必

正儀

正後

嬰児山 文野那

我方もやうく紙かなくと時きみさうりよふに今てこそをけ

ね可

友和

月も夜と老口あまうあうくい千を渡くもあうりよ

これい柳みさうり子山ううう

花のりもや嬰児山あふん焼梅

乳もやあまうりんとくうりよ

木の月あうくや折れさうり子

秋風かんくうり子山乃附多

子持りやあうり山乃さうり北

あう

富吉

松縁

友和

野廣

徳清

富吉



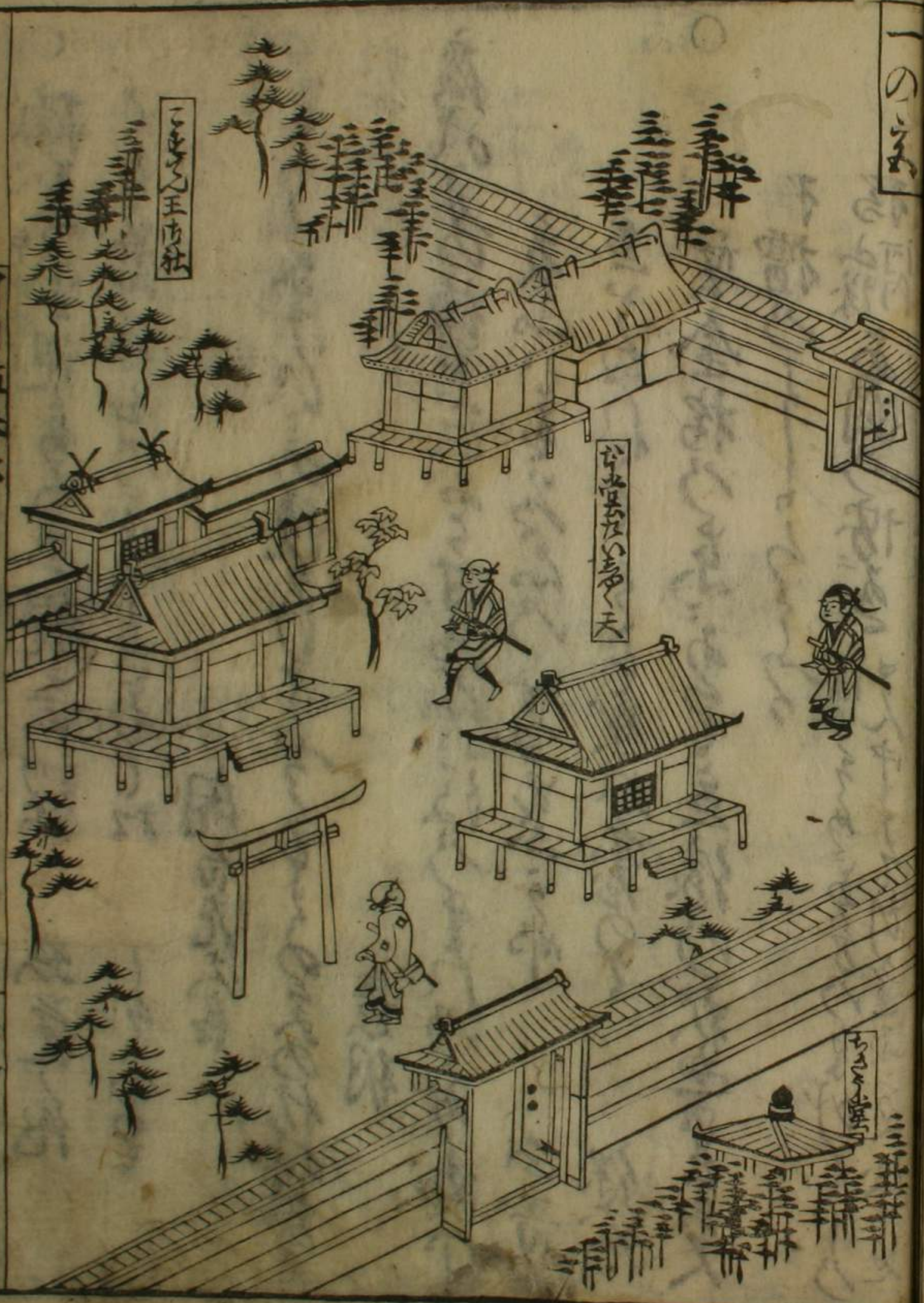
波瀲相尋寺

信明

西橋

波瀲 清院観る寺十二面観音
 昔惟より親まはるはる橋にに母りてふのまひてまふの
 日ありて枝とれくかこあててあつてもみふ所まきりう
 日ありてまきり人のまきりう
 老中ふ然と橋乃かきりせはまれんらうまきり
 日
 ちまかきりてと橋はまきりてあきりてまきりて河のまきり
 夕集
 うらつまきりてあきのまきりてあきのまきりてあきのまきり
 ね奇
 こまのまきりてあきのまきりてあきのまきりてあきのまきり
 信明

老中
 夕集
 信明
 友和
 業平



惣門の諸入り名をきき部一云
 月新れまにさつといかまき家
 内のみ風とかなさこのおるり
 於鴨ハ諸りまの神 ありか
 〇 長徳寺まも院正観音他ふ知
 〇 養父村観音寺十一面千手 神長 慈覚ノ作
 〇 一乃まま牛以天王帝釈天本堂ノ本也 四天王も有
 地蔵堂とるる東西へ松原四丁程あり
 くらまこれ一乃まわけや梅中ん花
 庭めや丸一以園し一乃ま
 初極らりりこのとそ一のま雀
 保友
 弓故
 安成
 奴昌
 一十
 重次
 没
 一十

○楠系くすねの里安徳郡観音ついで寺ついで慈光あきの池
 くも系くもなるかくもの池くももさあしくもの池くもしてわや

開白丸大石

後後に
 日日雲雲りりまますすひひのの境境りりけけももくくととののままのの枝枝れれのの月月
 和可

意網

病病れれ身身のの楠楠系系ににおおととすするる心心ののほほろろりりままれれののああららししめめ

又又山山ハハままりりぬぬるる心心のの昔昔ももああららししめめ

ままとと由由れれららくくももとと紫紫のの系系ののああ

○秋秋加加堂堂金金栲栲乃乃東東ののああららししめめのの秋秋也也のの去去六六人

赤赤梅梅檀檀乃乃一一乃乃くくももののああららししめめ

○金金栲栲乃乃東東ののああららししめめのの秋秋也也のの去去六六人



楠系の里

まのあらしの池

くもなるか

山は内をまわす

くも

くも

山城京

安原氏 貞室 四首 田結氏 義政 三首

大和

法隆寺 法橋哥慶 一首 南都富田氏 野麻 二首 三輪 勝信 三首

三之在原氏 芳昌 七首 三輪 利常 五首

宇陀久野氏 扇斗 二首 宇陀谷氏 一之 四首

宇陀久野氏 利光 一首 宇陀 由久 一首

今井四郎氏 交和 五首 今井久西氏 正風 一首

今井家老氏 一有 七首 今井門氏 常征 三首

下市之藤氏 忠貞 三首 五所 良弘 四首

五所 良長 一首 新在野氏 義元 一首

新在 松助 一首 道徳吉村氏 周圓 一首

快田小村氏 清風 二首 快田村 善心 二首

各柄中村氏 心後 五首 各柄中村氏 心儀 三首

高田大橋氏 言子 三首 小形内村 自延 二首

藤田利 光之 一首 孤井赤土氏 仙野 一首

下田 草葉 三首 兜原村 正賢 一首

寺戶村 永房 一首 小形内村 之次 一首

各柄中村氏 心武 一首 各柄中村氏 宗喜 一首

西室吉村氏 心寬 五首 延命寺 宗喜 一首

各柄 一雲 三首 高田三井氏 似柳 二首

小形内村 定廣 一首 孤井赤土氏 惟貞 一首

牧村 受父 一首 牧村 受父 一首

宇陀食氏 南都住 則武 五首

三輪 一樂 二首 日土氏 清信 二首

宇陀川為氏 草榮 一首 宇陀 秀經 六首

宇陀 秀經 六首 宇陀 次重 九首

宇陀 次重 九首 宇陀 良綱 六首

宇陀 良綱 六首 宇陀 次重 九首

宇陀 次重 九首 宇陀 良綱 六首

宇陀 良綱 六首 宇陀 次重 九首

宇陀 次重 九首 宇陀 良綱 六首

宇陀 良綱 六首 宇陀 次重 九首

宇陀 次重 九首 宇陀 良綱 六首

宇陀 良綱 六首 宇陀 次重 九首

宇陀 次重 九首 宇陀 良綱 六首

宇陀 良綱 六首 宇陀 次重 九首

宇陀 次重 九首 宇陀 良綱 六首

宇陀 良綱 六首 宇陀 次重 九首

宇陀 次重 九首 宇陀 良綱 六首

宇陀 良綱 六首 宇陀 次重 九首

宇陀 次重 九首 宇陀 良綱 六首

宇陀 良綱 六首 宇陀 次重 九首

宇陀 次重 九首 宇陀 良綱 六首

高橋村 辯思 二首
二階堂 仲也 一首
山角村 秀五 一首
河内 河内 一首
高橋村 正則 一首
西代 信道 一首
細井戸 二笑子 一首
見 信昌 一首
藤村 時春 一首

中村森氏 政公 四首
寬弘寺 先吉 五首
上太子村 梵達 一首
山田村 童勝 三首
山田村 正房 一首
山田村 鐵牛 一首
石川同家 哭水 三首
大分隊 可正 九首
春日村甲氏 弘重 三首
山田村 忠正 二首
山田村 正勝 二首
山田村 厭故 一首
神守村 一也 二首
大分隊 可清 一首
春日三村中 定久 五首
山田村 正勝 二首
山田村 重房 二首
山田村 忠之 二首
寬弘寺 吉重 三首
大分隊 正慶 一首
山田村 正利 二首
山田村 重房 二首
山田村 忠之 二首

山田村 正重 一首
大黒村 重房 一首
卷田 淨宣 一首
野中村 雲紙 一首
津堂淺田氏 宗信 一首
三密村 一守 一首
布衣 安永 五首
住道村 望勝 一首
國分原氏 忠房 一首
在井野野氏 唯正 二首
約分谷 義之 二首
卷田 一十 一首
巴村內本氏 友好 一首
小島泉 光榮 一首
田井城字本氏 望成 一首
布衣 一志 五首
住道村 卜人 一首
志分 永富 一首
垂井野野氏 愚蛙 一首
古市 吉重 一首
野中村林氏 正信 一首
小島暮氏 室與 一首
小島泉 清重 一首
布衣寺内氏 榮貞 一首
布衣 好昌 一首
國分 行廣 一首
志分 重勝 一首
垂井野野氏 正安 一首
卷田與官氏 可房 一首
野中村 回愚 一首
津堂前野氏 正香 一首
小島泉 正明 一首
池田義氏 貞弘 一首
布衣 易幸 一首
國分 柯燃 一首
田島村 久永 一首

国府

一利

一首

国府

久女

一首

国府

竹葉

一首

国府

友次

一首

本条尾氏

如元

一首

本条尾氏

正元

一首

本条尾氏

良惠

一首

柏原音氏

利房

一首

柏原音氏

津次

一首

柏原三郎氏

久次

一首

弓削西氏

常政

一首

弓削吉氏

種好

一首

弓削村

室良

一首

弓削村

為三

一首

大田柏原氏

信之

一首

大田村

室繼

一首

大野村

室玄

一首

本条尾氏

香隆

一首

本条尾氏

室次

一首

本条尾氏

忠之

一首

木中兵氏

隆玄

一首

櫻村

港良

一首

下人子

全栄

一首

竹園村

宗直

一首

出戸村

六松

一首

新井村

燕石

一首

尾木村

乃次

一首

尾木村

林城

一首

尾木村

可次

一首

八尾木氏

正之

一首

尾木村

正利

一首

八尾木氏

每雄

一首

同

每雄

一首

萱橋村

好貞

一首

萱橋村

仲宗

一首

萱橋村

仲重

一首

若江

政安

一首

若江

信安

一首

若江

萬世

一首

若江

友茂

一首

若江

直道

一首

若江

下

一首

若江

義忠

一首

竹園

春宵

一首

衣相原氏

正音

一首

衣相

深香

一首

衣相

忠幸

一首

三浦

親吉

一首

尾木村

良玄

一首

尾木村

典僧

一首

尾木村

重之

一首

尾木村

權坂

一首

尾木村

步月

一首

尾木村

正次

一首

尾木村

貞花

一首

尾木村

津久

一首

交野

浦鈿

一首

佛眼寺

正宗

一首

和泉傳

谷民

永重

一首

池谷氏

成之

一首

林善

顯成

一首

尾木村

政長

一首

光伯 五句 峯氏 教二 一首 相原氏 正勝 二句

攝州大坂

貞岡 二句 所藤源 秋也 八句 松山氏 意剛 七首 意乃村氏 立以 七句

如貞 五句 井氏 樂也 二句 水上氏 重安 二句 德乃村氏 清勝 三句 山氏

西鶴 五句 井氏 以仙 七句 藤原氏 贊也 一五 福住氏 性空 二句

良實 七句 小乃氏 言因 一五 氣谷氏 如松子 一五 曾山氏 高故 二句

忠昌 二句 林氏 安成 一五 氣谷氏 安成 四句 曾山氏 曾立 二首 登女

定親 七句 室住氏 定軌 三句 中林氏 宜休 九句 松川氏 藻川 三句 松川氏 熙音 二句

元由 八句 富川氏 有安 一五 松川氏 初知 一五 松川氏 熙音 二句

素玄 一五 松井氏 松縁 七首 小野氏 友也 一五 友定 一五

定圃 一五 古河氏 重栄 二五 下主 友也 一五 友定 一五

天満 西山氏 梅翁 二五 梶山氏 保友 十句 西田氏 久任 七首 甲中氏 友夢 二五

政長 七五 平子氏 天王寺 西田氏 久任 七首 甲中氏 友夢 二五

以春 一五 道沢 一五 後栄 一五

平野氏

祐可 二五 家次 二五 伊永 一五 宗継 一五

祐可 二五 家次 二五 伊永 一五 宗継 一五

その五と海六と海流うらむるは
多岐なすしと海をあらめ河内の國
名不鑑と名はく事をもりの切程王は
るもとる沫うみ司馬遷の河一と名
あがりまねんものやし後の人

ワラデ 真鑑ははす^ス常下鑑の法はたぬす

河内一國は海と海ありて一物也

海^{カリ}東^{キタチ}事^ツ水^ジの^ロ館^ミ雨^タ津^チ

河内うし海は免くく此書はわん

とて海は海のものありし

延寧七のうし卯月廿九日 括お信春一時好

岳西惟中跋

延寶七年己未七月吉日

洛陽書林章苑寺

西村七島共樹心光用板

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

